

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 25 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380442

研究課題名(和文) 英領期シンガポールの数量経済史研究体系化にむけた長期経済統計推計と実証的分析

研究課題名(英文) Quantitative Economic History of Singapore during British Colonial Period: The Construction of Long-term Economic Statistics and Empirical Investigations

研究代表者

杉本 一郎 (Sugimoto, Ichiro)

創価大学・国際教養学部・教授

研究者番号：50546364

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の構想はシンガポールの数量経済史に関する体系的な研究を包括的に進めることにあった。これまで蓄積した英領期シンガポールの数量経済史に関する先行研究を基に1819 - 1869期の長期経済統計推計、1870 - 1939期の生活水準の国際比較、1870 - 1900期の政府財統計のデータベース作成、1870 - 1939期のステープル理論に関する実証的分析という4つの連動した研究課題に取り組んだ。研究期間中、国際会議報告を3回、出版を1つ、審査待ちを1つ達成した。

研究成果の概要(英文)：The major objective this study is to conducted structured and inclusive research on quantitative economic history of Singapore under the British colonial administration. Based on the accumulated literature on quantitative economic history of Singapore, this research conducted the following specific theme. (1) the estimates of long-term economic statistics of Singapore for the period 1819-1869, (2) international comparison of standard of living, 1870-1939, (3) construction of historical statistic database, (4) Validity check of staple theory in the case of Singapore. These research topics are interrelated. During the period of this research project, three research presentations were made in international conference. 1 publication of paper and 1 waiting list of paper.

研究分野：Quantitative Economic History

キーワード：長期経済統計推計 英領期シンガポール 生活水準 植民地行財政

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想は、申請者が学位論文で扱ったシンガポールの長期経済成長分析と科研費の研究活動スタート支援(2009-10)、基盤研究(C)(2011-13)で採択された英領期シンガポール期の歴史経済統計推計と実証的分析の蓄積を行う過程で得られたものである。ラッフルズによるシンガポール割譲(1819)から200年目を迎える2019年の佳節にあわせ、現存する各種一次文献、先行研究を精査し、歴史経済統計と、実証的分析を基に、体系的なシンガポールの数量経済史の著述を志したことが、本研究の着想の直接的な契機となった。

2. 研究の目的

本研究の全体構想はシンガポールの数量経済史に関する体系的な研究を行うことにある。これまで先行研究や申請者が蓄積した英領期シンガポールの数量経済史研究(歴史GDP推計と実証的分析)を基に、本研究では1819-1870期の長期経済統計(人口、賃金、物価指数、生活水準)の推計、1819-1939、1950-2015期の生活水準の国際比較、1870-1900期の政府財政統計と社会資本整備のデータベース、1870-1939を対象とした政府財政行動とステープル理論に関する実証的分析の以上4つの連動した研究課題に取り組むことにある。

3. 研究の方法

1819-1870期の英領シンガポールにおける長期経済統計の推計

本課題では1819-1870期、英領シンガポール生成期における経済統計(賃金、物価、人口、貿易等)の推計を行う。関連統計資料を英領植民地時代の各種文献から探索し、整合性のある分析手法を適用し推計を行った。研究期間内に該当資料の探索と収集、関連統計資料のデータベース化、推計・加工作業、公開可能な推計・加工ワークシートの作成、推計・加工方法の文書化、推計結果の妥当性の検証を行ってきた。

英領期のシンガポールの生活水準の国際比較

1870-1939、1946-58期におけるシンガポールと他の主要国との間で購買力平価レートを求め、一人当たりの実質民間最終消費支出と実質GDPを求め、生活水準の国際比較を試みた。

英領期政府財政行動分析と社会資本整備のデータベースの整備

シンガポールの社会資本整備の進展と、その基盤形成を担った英国植民地政府の財政行動を分析した。第1に社会資本、すなわち港湾施設、道路、鉄道、用水路、電気といった産業基盤、さらには、学校、病院などの公共施設の建設、発展過程を、植民地の政府財政統計、年報、議事録等の資料を用いて時系列

的に明らかにした。

英領期シンガポールに関する実証的分析
1870-1900期の歴史統計と個別課題3のデータベースを用いて「政府財政行動と経済成長」、「ステープル理論によるシンガポールの経済成長の検証」の2つの視角から実証的分析を行った。

4. 研究成果

1819-1870期の英領シンガポールにおける長期経済統計の推計

賃金・物価・人口・貿易等の収集は部分的には進んだ。しかしながら、時系列のデータを整備し、全体像をつかむまでのデータベースの作成には20世紀以降のデータを比べ多くの制約があることが認識できた。また貿易統計については、既に先行研究があり、今後は当該研究者と連携しながら、データ入手の方法等について、協議をし、さらなる充実を図っていく。そして個別の統計としての整備を進め、ウェブサイト等で公開をして行く予定。

英領期のシンガポールの生活水準の国際比較

購買力平価の推計をもとにした国際比較ではなく、Robert Allenの手法を採用し、労働者の生存費に対する所得比という形で推計を行った。その内容を用いて、研究を行い、国際会議で報告を行った。本研究では、英領期シンガポール(1870-1939期を対象)非熟練労働者、熟練労働者の生活水準を、生存に必要な最低条件の消費支出と実質賃金とでそれぞれ比較した。そのために別途消費者物価指数と、実質賃金指数を推計した(図1参照)。その結果、英領期シンガポールの値は常に比率がほぼ全ての期間で1を超えており、また同時期のデータを中国(北京、広東)インド(ベンガル)、日本(京都)で同様に行った先行研究の結果と照らし合わせてみたところ、ほぼ全ての対象期間に置いて英領期シンガポールの非熟練、熟練労働者生活水準が高いという結果が出た。(以下図2を参照)

図1 英領期非熟練労働者のシンガポールの実質賃金指数 1870-1939

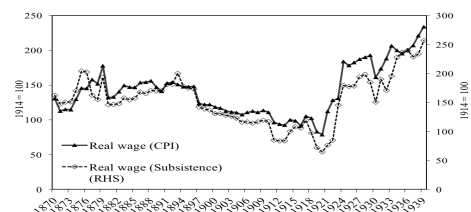
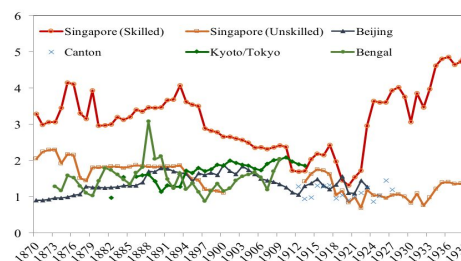


図2 生活水準指数の比較



本研究の成果を WECH2015 でセッションを持ち報告を行った。現在 Singapore Monetary Authority の Choy Keen Meng 博士と本研究に関連して論文を作成しており、掲載に向け調整中である。

次に英領期シンガポールにおける阿片の消費に焦点を当て、主要な消費者層である中華系移民の労働者層に焦点を当てその割合を試算した。これによると当年価格で約 22-27% の支出がアヘン消費によるものであることがわかった(表 1 を参照)。通常生活水準の国際比較の中に阿片の消費は含まれていないが、この推計結果を考慮すると、前出のものとは異なる議論となることが予測される。今後は中国を中心とした地域で阿片の扱いかたについて精査し、Allen 等が行ってきた Subsistence Consumption Basket に関する定義のアジア地域における適応の仕方について、明らかにしていきたい。

表 1 英領シンガポールにおける中国人労働者層の主要項目別消費の割合 1900-1939

	Food	Beverage & Tobacco	Clothing	Rent	Miscellaneous	Opium	Total	
1900	60.5	3.7	6.5	2.7	1.5	25.1	100.0	1900
1905	60.9	3.6	6.7	2.6	1.5	24.6	100.0	1905
1910	60.3	3.7	6.6	2.7	1.5	25.1	100.0	1910
1915	59.6	3.2	9.0	2.5	1.5	24.1	100.0	1915
1920	62.2	3.7	8.5	1.8	1.6	22.3	100.0	1920
1925	58.0	4.3	6.8	4.0	1.5	25.4	100.0	1925
1930	57.3	4.2	6.4	4.8	1.5	25.7	100.0	1930
1935	55.7	5.1	7.1	4.3	1.5	26.3	100.0	1935
1939	53.6	5.2	7.9	4.9	1.5	26.9	100.0	1939

本研究の内容については、AAWH2015 の中で研究報告し、また現在、経済史関連のジャーナル用に論文を作成中である。本年 8 月にシンガポールで開催される Singapore Economic Review conference 2017 にて報告予定である。

英領期政府財政行動分析と社会資本整備のデータベースの整備

Straits Settlements, Blue Books の資料を購入し、関連資料の選択、PC へのデータ入力をおこなった。1900-1939 年期については、データベース化を行った。その成果の一部はシンガポールで行われた会議で報告した。今後は、入力したデータをデータベースに変えていく作業を行なっていく。

英領期シンガポールに関する実証的分析
1870-1939 期の歴史統計を用いて「ステープル理論によるシンガポールの経済成長の検証を行い、2つの国際会議で報告の中で、実証研究の成果の一部を披露した。また現在論文を作成中である。

その他

Maddison Project に自身が行ってきたシ

ンガポールの GDP 推計結果 (1900-39, 1950-60) が採用された。2014 Bolt, J. and J. L. van Zanden (2014). The Maddison Project: collaborative research on historical national accounts. The Economic History Review, 67 (3): 627-651.

京都で開催された 17th World Economic History Congress 2015 では、8月5日(水)「旧英領における国民所得勘定の推計：青書とその他資料の役割」(Reconstructing the National Income of the Former British Colonies: The Role of the “Blue Books” and Other Sources)と題するセッションを組織し、シンガポール、キプロス、ミャンマー、オランダ、日本の研究者とともに、英領期における各種歴史統計の推計方法と、それを活用した実質賃金と生活水準に関する実証分析について報告。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Sugimoto, Ichiro (2015) “The Reconstruction of Singapore’s GDP 1900–60: Estimates And Trends”, *Macroeconomic Review, Monetary Authority of Singapore* 10, Issue 1 Apr 2015, pp.87-93
http://www.mas.gov.sg/~media/resource/publications/macro_review/2015/SF%20B%20%20The%20Reconstruction%20of%20Singapore%20GDP%20190060%20%20Estimates%20and%20TrendsApr15.pdf

〔学会発表〕(計 3 件)

発表表題：Methodology of Deriving the Annual Opium Consumption in the Colony of Singapore and its impact to government revenue raising and government portfolio financial investment.

学会名：The Third Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH 国際学会)

発表年月日：2015 年 5 月 29 日-6 月 1 日

発表場所：シンガポール理工大学

発表表題：Estimate of Private Final Consumption Expenditure in the Colony of Singapore, 1870-1900: Progress and Perspective.

学会名：World Economic History Congress (WHEC2015)

発表年月日：2015 年 8 月 03 日-8 月 7 日

発表場所：国立京都国際会館

発表表題：The Rise of a staple port: Real Wages and Living Standards in Singapore, 1870-1939

学会名：World Economic History Congress

(WHEC2015)

発表年月日：2015年8月03日-8月7日

発表場所：国立京都国際会館

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

杉本 一郎 (SUGIMOTO, Ichiro)

創価大学・国際教養学部国際教養学科・教授

研究者番号：5060364

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()